

文化財に関する調査研究成果および研究情報の共有に関する総合的研究^(※01)

研究組織 江村知子、橘川英規、安永拓世、米沢玲、二神葉子、小山田智寛、小林公治、塩谷純、吉田暁子、小林達朗、小野真由美、城野誠治、阿部朋絵、田村彩子（以上、文化財情報資料部）、山梨絵美子、永崎研宣（以上、客員研究員）、久保田裕道（無形文化遺産部、文化財情報資料部兼務）、早川典子（保存科学研究センター、文化財情報資料部兼務）、西和彦（文化遺産国際協力センター、文化財情報資料部兼務）

目的 国内外の諸機関との連携を見据え、当研究所の文化財に関する調査研究の成果・データをより国際的標準に見合うかたちを整え、効果的に共有してゆくための研究を行う。あわせて地方公共団体と文化財に関する情報の提供と共有を行うことを視野に入れる。

成果

1. 調査研究の成果の公開と、研究情報の国際発信

- 当研究所刊行の論文等を国立情報学研究所が運営する学術機関リポジトリデータベース（IRDB）を通じて公開する作業を進め、『美術研究』、『無形文化遺産研究報告』、『保存科学』、各種報告書など148件を今年度新たに追加し、合計14タイトル3,836件の論文・刊行物のフルテキストを掲載・公開した。
- 展覧会カタログ所載記事・論文のデータを「東京文化財研究所美術文献目録」として、世界最大の共同書誌目録データベースであるOCLCのセントラル・インデックスに情報提供し、今年度は2018（平成30）年の文献情報5,712件を追加した。
- 新型コロナウイルス感染症拡大防止を目的として、中止・延期・臨時休館等の影響を受けた、日本の美術館・博物館の展覧会情報を収集したデータベース（1408件）を作成、公開した。

https://www.tobunken.go.jp/materials/exhibition_covid19

2. 国内外の関連機関との共同研究・協議

- 京都府所蔵昭和初期文化財調書の約20,000点のデジタル画像のうち約14,300件のメタデータを追加したほか、調査撮影フィルムのデジタル化を進め、データベース構築を行い、公開活用のための協議を行った。
- Getty研究所のGetty・リサーチ・ポータルに当研究所所蔵の所蔵資料を公開するための協議を行い、共同研究の成果について北米美術図書館協会（ARLIS/NA）での発表を英語で行った。
- イギリス・セインズベリー日本藝術研究所と日本美術及び同研究に関する英語文献・記事情報の採録に関する運用面での協議をオンラインで行った。

発表

- Anne Rana, Emura Tomoko, Building Bridges: Working Together to Disseminate Japanese Art Literature（研究の架橋：日本美術資料の情報発信についての国際協働）49th Annual Conference of Art Libraries Society of North America（北米美術図書館協会第49回年次大会） 21.5.13



セインズベリー日本藝術研究所とのオンライン協議



オンライン開催の北米美術図書館協会（ARLIS/NA）での発表